

CHAPTER

第3章

特許要件

訂正情報 (参照ページの追加)

57 頁 8 行目

(誤) 機能的クレーム

(正) 機能的クレーム (⇒174 頁)

(誤) プロダクト・バイ・プロセス・クレーム

(正) プロダクト・バイ・プロセス・クレーム (⇒175 頁)

61 頁 14 行目

(誤) 分割出願

(正) 分割出願 (⇒103 頁)

62 頁最終行

(誤) [キルビー (⇒191 頁)] 参照

(正) [キルビー (⇒61 頁, 191 頁)] 参照

フォローアップ

法改正

とくになし。

判例

とくになし。

審査基準の改訂

審査基準と審査基準ハンドブック（およびその附属書（A 事例集，B 特定技術分野，C 実用時新案技術評価書，D 審判決集））2分冊となった（2015年9月改訂）。審査基準を簡潔かつ明瞭にするとともに，事例を充実させた。

補足情報（付加説明，参考文献紹介）

第3章，第4章，第8章全般について，下記文献参照。

中山信弘『特許法〔第3版〕』（弘文堂，2016年）

中山信弘=小泉直樹編『新・注解特許法 上・下』（青林書院，2011年）（改訂中）

増井和夫=田村善之編『特許判例ガイド〔第4版〕』（有斐閣，2012年）

吉藤幸朔（熊谷健一補訂）『特許法概説〔第13版〕』（有斐閣，1998年）

2 産業上の利用可能性 （41頁）

下記文献参照。

中山信弘『特許法〔第2版〕』（弘文堂，2012年）117～120頁

小泉直樹「治療方法発明保護の法政策」ジュリスト1227号（2002年）46頁

iPS細胞と特許について，京都大学iPS細胞研究所ウェブサイト「[CiRAの知的財産](#)」参照。

4 進歩性 （49頁）

特許庁「[特許・実用新案審査基準](#)」第Ⅲ部第2章（新規性・進歩性）参照。

5 記載要件 （56頁）

下記文献参照。

平嶋竜太「特許出願における発明開示と実効的保護の調和——パラメータ特許事件大合議判決と今後の方向性」ジュリスト1316号（2006年）23頁

潮海久雄「特許法の開示要件（実施可能要件・サポート要件）について」ジュリスト1324号80頁——記載要件が他の特許要件と重なっている点，および記載要件のメリットとデメリットを示した。

7 公序良俗 (63 頁)

中山信弘『特許法〔第3版〕』（弘文堂，2016年）145～150頁参照。